

2018年度事業報告

自 2018年 4月 1 日

至 2019年 3月31 日

公益目的事業

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・災害時支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業（以下、健診事業）

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚に関する情報をインターネットホームページに掲載した。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」をインターネットホームページに引き続き掲載（ダウンロード可能）するとともに、当該文書を各市区町村医療センターへ配布し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を促した。
- (3) 三歳児健康診査での眼科検査方法を解説した「三歳児眼科健診マニュアル」をインターネットホームページに引き続き掲載し（ダウンロード可能）、三歳児健康診査の検査技術及び精度の地域格差を改善した。
- (4) 成人以降に発症する眼疾患への注意を促すための成人版「目の健康チェックシート」として「あなたの目、本当に大丈夫ですか？」をインターネットホームページに引き続き掲載（ダウンロード可能）するとともに、リーフレットを活用し、国民に眼保健衛生の重要性を伝える取り組みを行った。
- (5) 第2回三歳児健康診査従事者のための研修会を開催した。

2019年2月3日（日） TKP名駅桜通口カンファレンスセンター（名古屋）

参加者 84名（保健師80名 看護師1名 その他3名）

2. 広報事業

- (1) インターネットホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行った。
- (2) インターネットホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行った。
- (3) 協会ポスターとリーフレット、動画を会員や関連諸団体へ配布、案内して「視能訓練士」の名称および職務を国民に向けて広報した。
- (4) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上に努めた。特に東京都においては、東京都眼科医会が主催するTokyo Eye Festivalに参加し、視機能に関するトピックスを来場者に紹介することを通じて、視能訓練士がQuality of visual life に果たす役割を広くアピールした。

2018年 10月6日（土）・7日（日）：新宿西口イベント広場

参加した視能訓練士 32名 来場者 延べ2825名

- (5) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、眼疾患を啓発するパンフレットおよび視能訓練士に関するリーフレットを配布した。

2018年 5月12日(土)：新宿西口イベント広場

参加団体 17団体 来場者1319名

視能訓練士協会より南雲会長、近藤常務理事、丸林理事、会員1名、合計4名参加した。

視力検査250名実施、視覚障害シュミレーションゴーグル体験150名実施した。

- (6) 中学生・高校生に対しては積極的に視能訓練士の職務を紹介し、視能矯正学を学ぶ学生に対しては本協会の事業を紹介するJACOメイト制度を活用し、早期から本職や本協会への興味や理解を促した。
- (7) 他団体の職業紹介関連事業を通じて中学生・高校生に向けた視能訓練士の職業紹介をした。職業紹介の動画を作成し、インターネット動画視聴サイト、およびホームページに掲載し、視能訓練士を目指す中高生や養成校に周知し活用した。
- (8) インターネットホームページの拡充を行った。
- (9) 近見立体視検査表としてJACO Stereo Testの製品化を行った。
- (10) 視能訓練士知名度向上検討委員会を立ち上げた。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行った。
- (2) 視機能の病態および視能矯正の実態調査を検討した。
- (3) 5年毎に行う視能訓練士に関するアンケート調査および実態調査報告書の発行に向けた準備を行った（次回は2020年実施予定）。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、就業傾向を把握した。
- (5) 日本視能訓練士協会定款施行規則を検討し、必要に応じて改定した。
- (6) 視能訓練士雇用状況調査、雇用推進に向け準備を行った。
- (7) 日本視能訓練士協会の戦略企画会議を行った。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互の協力について交流を密にした。
- 1) 監督官庁（内閣府）及び関係官庁（厚生労働省・文部科学省）へ、協会の現況について連絡交流を図った。
- 2) 研究諸団体（日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・日本眼光学学会・日本小児眼科学会・日本ロービジョン学会・日本視野学会等）と学術・技能向上の提携交流を図った。
- 3) 医療研修推進財団・国際医療技術財団・医療技術者21団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会等に参加し、医療技術者団体間の交流を図り、医療技術者の相互理解を深めた。
- 4) 国民医療推進協議会へ参加し、参加団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行った。
- 5) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上に向けた活動を行った。
- (2) 国外の視能矯正学分野・視能訓練士に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行った。
- 1) 国際視能矯正協会(IOA)代表者会議に出席した。
- 国際視能矯正協会理事会 2018年11月16日にオランダ開催、決議を委任した。
- 2) 視能訓練士の技術向上・技術提携のための海外における視能訓練士の実態調査の検討をした。

- (3) 国内の視機能に関係する団体および学会への後援を通し協力することで知識・技術の向上を図った。
- 1) 第23回国際視野画像学会・第7回日本視野学会学術集会（金沢）を後援することで協力した。
第19回日本ロービジョン学会学術総会（旭川）を後援することで協力した。
第27回視覚障害リハビリテーション研究発表大会（神戸）を後援することで協力した。
 - 2) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力した。
2018年 7月28日（土）・29日（日） 第11回眼光学チュートリアルセミナー
参加者：100名（視能訓練士48名 医師16名 その他36名）
- (4) 地域ブロック会議を開催し、各ブロックでの現状把握を行い、災害時の安否確認等、地域の連携を強化した。

5. 出版事業

- (1) 日本視能訓練士協会誌（学術論文集、第47巻）を雑誌として発刊し、電子ジャーナル（J-STAGE）を公開した。
- (2) 日本視能訓練士協会会報（第131号、第132号）を2018年10月と2019年3月に発行した。
- (3) 日本視能訓練士協会設立50周年記念誌の出版準備を行った。

6. 災害時支援事業

- (1) 東日本大震災を契機に発足した眼科医療活動「日本眼科災害対策会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害を想定し、被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援した。
- (2) 「視覚障害者の災害に備えた連絡会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害時に視覚障害者への支援活動に対し関連団体が連携し、より効率的な支援を行った。
- (3) 首都圏で大規模災害が発生した際、公益目的事業を遂行できるように事務局環境整備を行った。

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

- (1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行った。

- 1) 第59回（2018年）学会準備及び開催

会期:2018年11月10日（土）～11日（日）

会場:パシフィコ横浜

学会長:大沼 学（総合新川橋病院）

名誉会長:内海 通（総合新川橋病院）

テーマ: Step by step 「学ぶ」

参加者 2489名（会員1640名 非会員470名 賛助会員10名 招待7名 学生362名）

- 2) 第60回（2019年）学会開催準備

会期:2019年11月30（土）～12月1日（日）

会場:福岡国際会議場

学会長:瀬戸 寛子 (九州大学)

名誉会長:園田 康平 (九州大学)

3) 第61回 (2020年) 学会開催準備

会期:2020年10月3日 (土) ~4日 (日)

会場:札幌コンベンションセンター

学会長:藤井 美奈子 (手稲溪仁会病院)

名誉会長:鈴木 康夫 (手稲溪仁会病院)

(2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第72回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催

2018年10月11日(木)~14日 (日)

会場:東京国際フォーラム

テーマ:「こんなときどうする?外斜視の検査と診断」

オーガナイザー 林 孝雄 (帝京大) 長谷部 佳世子 (川崎医大総合医療センター)

参加者 950名 (単位取得者数 346名)

2) 第73回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催準備を行った。

2019年10月24日(木)~27日 (日)

会場:国立京都国際会館

テーマ:「後天内斜視の診断と検査のポイント」

オーガナイザー 牧野 伸二 (自治医大)、松本 富美子 (近畿大)

(3) 第72回日本臨床眼科学会インストラクションコースに「斜視の視能訓練」をテーマとしたプログラムを企画し、開催した。

参加者 500名

2. 講習研修事業

(1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第34回講演会開催 2018年6月3日(日):大阪商工会議所

講演内容:「黄斑疾患~最新の知見~」

演者:五味 文 (兵庫医科大学)

参加者 489名 (会員437名 非会員6名 ジャコメイト46名 学生0名)

2) 第35回講演会開催準備を行った。 2019年6月2日(日):ヒューリックホール東京

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第17回研修会開催 2018年6月3日(日):(大阪) 第34回講演会と併催した。

研修内容:「深めよう!眼鏡処方検査」

参加者 489名 (会員437名 非会員6名 ジャコメイト46名 学生0名)

2) 第18回研修会開催準備を行った。 2019年6月2日(日):(東京) 第35回講演会と併催

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施した。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2018年 7月 15日(日)・16日(月・祝) CIVI研修センター秋葉原(東京)

受講者127名(うち聴講1名)・全員修了

2018年 9月 16日(日)・17日(月・祝) 大阪商工会議所(大阪)

受講者 87名(うち聴講2名)・全員修了

技術日程ブロック単位開催

北海道ブロック

8月26日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 吉田学園医療歯科専門学校

9月30日(日) 視野検査 吉田学園医療歯科専門学校

10月21日(日) 視力・屈折検査 吉田学園医療歯科専門学校

東北ブロック

10月 7日(日) 視野検査 東北文化学園大学

10月 8日(月・祝) 両眼視・眼位・眼球運動検査 東北文化学園大学

11月18日(日) 視力・屈折検査 東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

8月 5日(日) 視力・屈折検査 帝京大学医療技術学部

10月28日(日) 視野検査 帝京大学医療技術学部

2019年 1月27日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 帝京大学医療技術学部

東京ブロック

8月 5日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 帝京大学医療技術学部

10月28日(日) 視力・屈折検査 帝京大学医療技術学部

2019年 1月27日(日) 視野検査 帝京大学医療技術学部

東海・北陸ブロック

9月22日(土) 視野検査 愛知淑徳大学

9月23日(日) 視力・屈折検査 愛知淑徳大学

9月30日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 愛知淑徳大学

近畿ブロック

6月17日(日) 視野検査 神戸総合医療専門学校

7月 1日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 大阪医療福祉専門学校

7月22日(日) 視力・屈折検査 関西医科大学附属病院

中四国ブロック

5月27日(日) 視力・屈折検査 川崎医療福祉大学

11月18日(日) 視野検査 川崎医療福祉大学

2019年 2月10日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 川崎医療福祉大学

九州ブロック

10月28日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 熊本大学医学部山崎記念館

2019年 2月10日(日) 視力・屈折検査 大分視能訓練士専門学校
2019年 2月11日(月・祝) 視野検査 大分視能訓練士専門学校
受講者合計 433名

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅠ 開催

2018年 7月 14日(土)・15日(日)・16日(月・祝) CIVI研修センター秋葉原(東京)
受講者 133名 ・全員修了

2018年 9月 15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 大阪商工会議所(大阪)
受講者 96名 ・全員修了

基礎教育プログラムⅢ 開催

2018年 11月24日(土) 視能矯正学 受講者 46名・全員終了

11月25日(日) 視能障害学 受講者 48名・全員終了 機械振興会館(東京)

2019年 2月16日(土) 視能矯正学 受講者 41名・全員終了

2月17日(日) 視能障害学 受講者 42名・全員終了

CIVI研修センター新大阪東(大阪)

3) 専門教育プログラムⅠ 開催

2018年 7月 15日(日)・16日(月・祝) CIVI研修センター秋葉原(東京)
受講者 29名 ・全員修了

専門教育プログラムⅡ 開催

2018年 9月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 大阪商工会議所(大阪)
受講者 28名 ・全員修了(16日のみ聴講者 1名)

(2) 公益財団法人医療研修推進財団が主催する実習施設指導者等養成講習会を後援した。

2018年 7月14日(土)・15日(日)・16日(月・祝) 機械振興会館(東京)
受講者 58名 (会員 54名 非会員 4名)

(3) 施設見学研修を行った。

実習施設指導者等養成講習会修了者(全修了者)が勤務する施設で、2018年9月～2019年3月の期間に希望者に対して施設の見学および研修を行った。

(4) 「眼科コメディカルビデオシリーズ」のDVDを希望者に貸し出し、技術研修に役立てた。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定し、以後5年ごとに認定更新を行う。

(2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「認定専任教員」と認定し、以後5年ごとの認定更新を行う。

(3) 日本視能矯正学会にて認定視能訓練士セミナーを開催した。

(4) 指導者育成のための研修会を開催した。

2018年12月2日(日) 大阪人間科学大学

視力・屈折検査	受講者	5名
視野検査	受講者	7名
両眼視検査	受講者	7名

2. 学術奨励賞に関する事業

(1) 該当論文を選出し、第10回学術奨励賞を選考した。

2018年度に発行予定の日本視能訓練士協会誌第47巻に投稿された学術論文より、対象論文を選考したが該当者はなかった。

3. 生涯教育に関する事業

(1) 第59回日本視能矯正学会にて第9回生涯教育セミナーを行った。

受講者 716名

(2) 第59回日本視能矯正学会にて第2回認定視能訓練士セミナーを行った。

受講者 239名

「附記」

2018年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な項目」が存在しないので作成しない。

以上